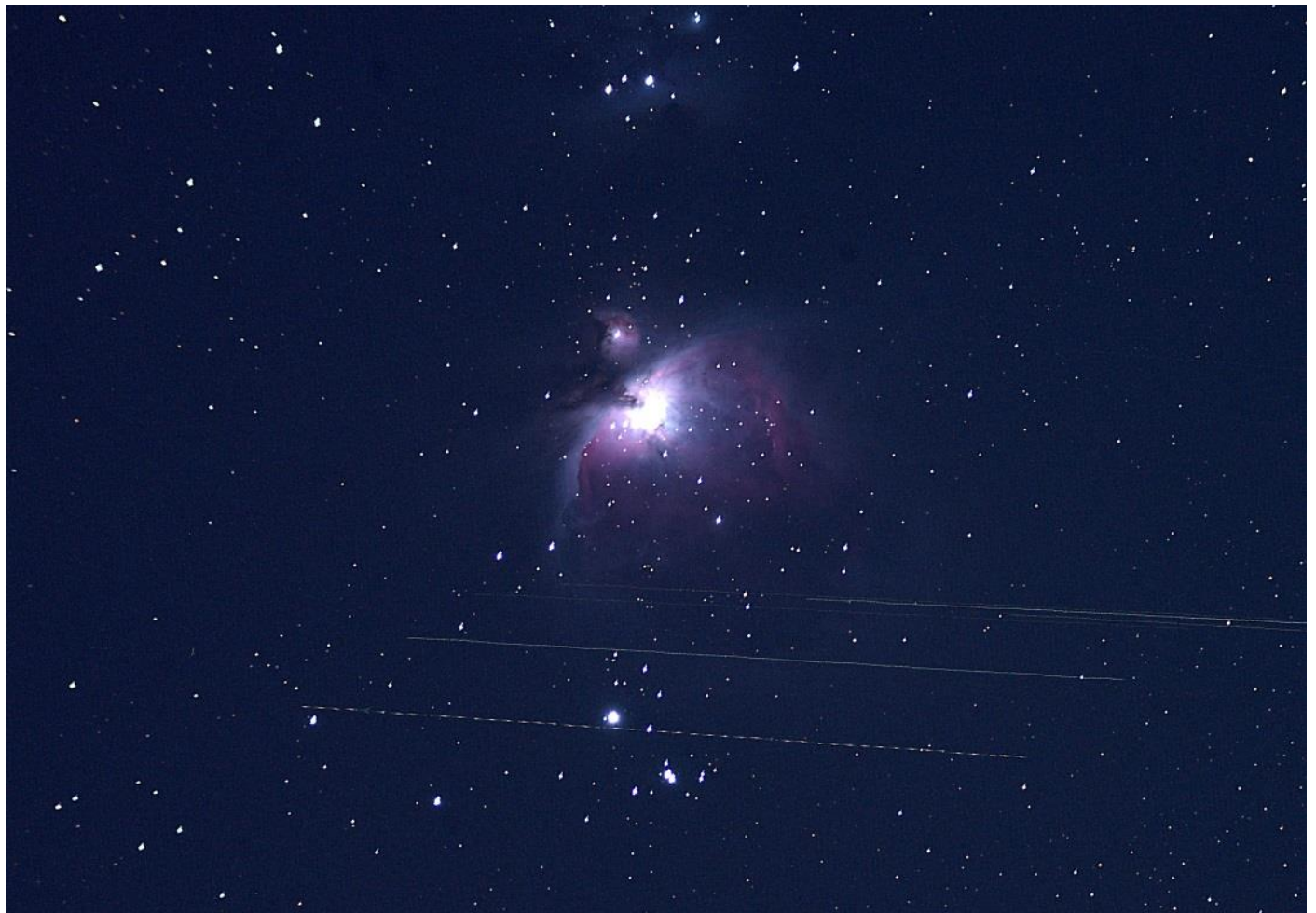


オリオン座の三ツ星の下にある大星雲(M42)と高度約36000Kmを回る静止衛星の軌道の仰角がほぼ一致しています。【図-1】 そのため、時刻にもよりますが、M42を長時間露出で撮影するとその前を横切る何本もの静止衛星の光跡を写すことができます。

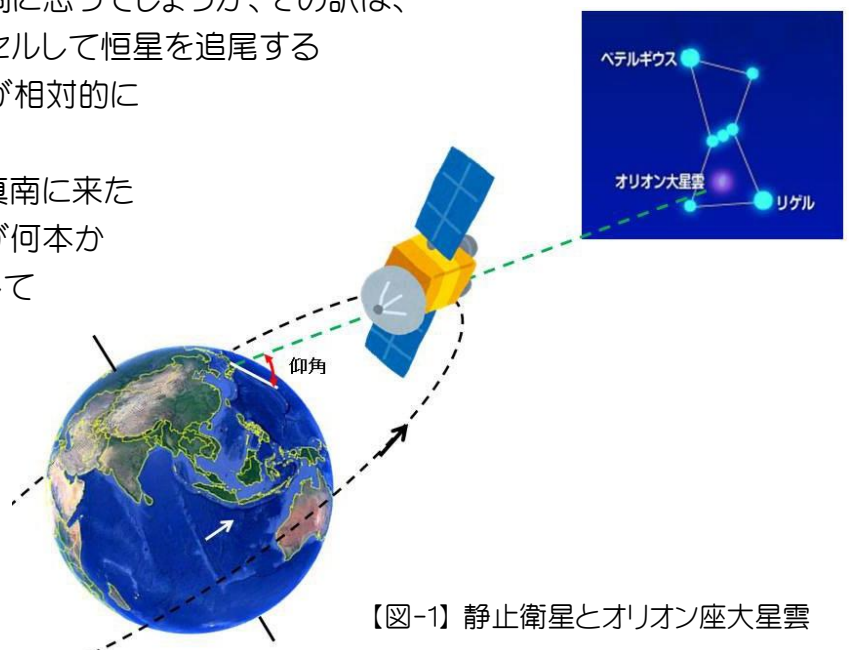


【写真-1】 オリオン座大星雲(M42)の前を通過する静止衛星群
我が家の庭先で撮影, 500mm望遠レンズ, 露出210秒, 赤道義による自動追尾

静止衛星がなぜ動くのか、と疑問に思うでしょうが、その訳は、撮影する時に地球の自転をキャンセルして恒星を追尾する赤道義を使うため、静止衛星の方が相対的に逆方向に流れて見えるからです。

【写真-1】 はオリオン座がちょうど真南に来た時に撮影したM42の写真で、光跡が何本か写っています。点線は本体が回転している気象衛星の光跡と思われ、これらの衛星のほかに、南西の方向には、BSやCSなどの放送衛星があります。

今や私たちの生活に欠かせない存在となった静止衛星、時代の進歩を感じますね。



【図-1】 静止衛星とオリオン座大星雲